



# 視察報告(文教・子ども委員会、議会運営委員会)

昨秋～冬の議会の会期の合間には、文教・子ども委員会や議会運営委員会での行政視察。山口県や広島県で先進的な自治体の取組みを学びました。ここでは紙幅の関係で4自治体に絞って報告します。なお議会改革の一環で、今まで非公開だった行政視察や友好都市交流の報告書が今年度からホームページで公開されることに(現在準備中)。他の委員会ではどのようなヒントを得たのか、公開が楽しみです。なお私は文教・子ども委員会では宇部市、議会運営委員会では呉市を担当。こちらは先に私のホームページで公開します。



新しい庁舎は大体どの市町村も「書かない窓口」(宇部市役所)

## ふくふくこども館

子育て相談も可能な子育て施設@下関市



休日や年末年始は親子連れがあふれる

文教・子ども委員会の最初の視察先は山口県内で最大規模、目黒区と同程度の人口を抱える下関市の子育て複合施設。とても楽しそうな遊び場が充実しているだけでなく、一時預かりも行っており、保育士も常駐。利用時間は1～3時間ほどで、美容室やリフレッシュに使う方が多いとのことでした。またどんなお子さんでもできるだけ受け入れるそうで、自閉や自傷など、少し手がかかるお子さんの割合がやや高い印象とも。

保育所や幼稚園に通っていない親子が訪れる機会も多いことから、困りごとの気軽な相談や虐待の未然防止にも一役買っています。目黒区の子育て施設でもこうした良さをうまく取り入れられないか、議論に活かしていきたいです。

## 学校と地域、どう連携？

先進的なコミュニティスクール@山口市

市区町村立の小中学校は地域と連携していくべきとして、文部科学省は「コミュニティスクール」の取組みを進めるという方針。目黒区では「学校運営委員協議会」を今年度に小学校2校、中学校1校で先行実施したばかり。R9年度に半数の学校、R11年度に全校に拡大する予定なので、先行自治体である山口市の取組みを学びました。

目黒区では教員の負担軽減の側面が強そうですが、山口市では子どもたちが地域貢献の担い手にもなっていると感じました。元から素地はあったそうですが、県を挙げて地域連携に関する時間をカリキュラムに組み込んでいることも後押しになっているようです。

## 教育に活かせ！現代技術

ICT機器や分身ロボットなど@山口県庁

県を挙げて教育に力を入れる山口県。ICT機器を活用した支援でも面白い取り組みがいくつも。不登校やケガ、病気、障害などで学校に通えない児童・生徒の支援としての分身ロボット、特に答えをわざと教えてくれない生成AI、様々な障害に対応した入出力装置などなど。この紙面には到底書き切れないくらい、どの施策もワクワクしながら耳を傾けました。

AIが発達しても教員にしかできない部分は何かと尋ねると、モデル校での検証時から「人間の強みは何か」という問いと向き合い続けてきた結論として、学びのコーディネート役や、どう学ぶかを教えるのはヒトの役割だとのこと。膝を打ちました。資料にはメモや質疑の内容がびっしり



資料にはメモや質疑の内容がびっしり

## 主権者教育(子ども議会)

議会での一般質問を体験@廿日市市

こちらは議会運営委員会での視察ですが、主権者教育の機会として「子ども議会」を開催する廿日市市(広島県)へ。廿日市市では市内の市立、県立、私立の12校の各校から一人ずつの参加。実際に本会議場で一般質問の場を体験してもらう形式で、当日は傍聴者や理事者も含めて100人以上が参集する大きなイベントになっています。

目黒区議会でも高校生からの陳情をきっかけに、今まで進んで来なかった主権者教育について議会改革の一環として取り組んでいます。様々な手法がある中で、ワクワクする取組み事例を学ばせて頂きました。



質問にも熱が入ります

# 渋谷区の子育て施設

12/16(火)、以前に渋谷区役所を会派で視察した時から気になっていた「渋谷区子育てネウボラ」を視察。「ネウボラ」は国際的にも高い評価を得たフィンランドの母子保健の拠点や仕組みで、近隣区では世田谷区や品川区でも「ネウボラ」と名付けた施設や事業があります。



24.8 会派での区役所視察後、感動して撮ったエントランス

渋谷区役所近くにあるこの施設は、様々な年代に応じた遊び場に加えて、3・4カ月などの健診会場、発達相談や教育相談の場などもあり、役所の部署を越えた子育て拠点となっていました。充実した遊具やお子さん連れをターゲットとしたカフェなどもあり、気軽に訪れたいくなる雰囲気。

何か困った時に行政に相談しようと思うには勇気が要るかも知れませんが、こうした施設なら垣根が低くなりそうです。



2階は区外在住者でも日曜以外は利用可能らしい。

## 改めて 区民センター視察

10/24(金)は公民連携・施設更新等調査特別委員会で目黒区民センターへ、委員会メンバーで視察に。美術館の書庫も含めて、これまで足を踏み入れたことの無い非公開の部分まで見学させて頂きました。

メインの建物は1フロアが耐震基準を下回っているほか、全体的にあちこちで老朽化が進んでいる様子が窺えました。そして少し後に建てられた美術館にしても、改修でのバリアフリー化が難しいという状況は改めて実感。また玄関が敷地内の主動線から見えにくい点も建替えて改善されれば入館者も増え、もっと多くの区民が芸術に触れることになる気がしています。

区有施設全体を俯瞰した区有施設見直し方針・計画はR8年度中に改定され、新しい区民センターの設計はその計画に沿った形で設計されていきます。



# 他自治体の区立児相③

10/29(水)には立憲民主党の中野区議に調整して頂き、R4.4月に23区では5番目に開設された中野区児童相談所へ。以前の区政レポート(Vol.31)でも触れたように、目黒区は区立で設置するのではなく、都立児相のサテライトオフィスをこども家庭センター内に開設しています。

児相の中には一時保護所の機能もありますが、東京都が設置する場合だと管理に重きを置く傾向があります。この点で中野区は子どもの権利として、アドボケイト(意見表明権)事業も丁寧。意見箱で環境改善に取り組んでいるほか、毎週月曜に意見表明の場を確保。



さらには在籍校への登校はR6年度に対象児の23%、「学校に行きたい」という子どもの願いはほぼ聞くことができたとのこと。困難な状況に直面する子どもたちに対応することが多い中でも「子どもの夢と希望を実現するために」という言葉を掲げているだけあって、全国的にも珍しい個別外出の機会も設けていることも特徴です。



プライバシーの都合上、写真は講義風景のみ

里親登録も、東京都児相の場合は広域に対応するので区内の子どもをほとんど受け入れられなかったそうですが、中野区では区内で委託できることが多くなったとも。「身近な区役所がやる方が、きめ細かにできると思う」という言葉が印象的でした。

以前に視察させて頂いた世田谷区や港区の児童相談所と同様に、区立の児童相談所は保護者や子どもに近い目線で運営しようという意味が見えます。東京都からの支出金があっても中野区では年間6億円の持ち出しが発生しているとのことではあります。都児相との連携で乗り切る目黒区もこのくらいきめ細かに対応できる体制になって欲しいです。